

令和6年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 No.1

重点目標	自己評価						改善策		
	具体的取組	主担当	評価の観点	到達度判断基準		判定基準		前期到達度	後期到達度
1 確かな学力の育成	① 学ぶ意欲を高める児童主体の授業を創造する	研究主任	努力	児童が学び方を選択して課題を解決することができるように、学期ごとに計画した手立てをもとに授業づくりの工夫に努めている。	教員アンケート		4+3の割合	100	引き続き、児童が学び方を選択して問題解決することができるように、学年会を充実させ、学年で教材研究をしたり、他校の実践を参考にしたりしながら、学年を意識した授業づくりの工夫に努める。
			4 よくあてはまる	2 あまりあてはまらない			A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	A	
			3 だいたいあてはまる	1 あてはまらない					
	成果	学期ごとに設定した「目指す児童の姿」に達成できたか。	教員アンケート		4+3の割合	100	毎月の学年会で、学期ごとに設定した「目指す児童の姿」の達成度について話し合い、現状の取組を継続していく。		
	4 よくあてはまる	2 あまりあてはまらない			A90% B70%以上90%未満 C60%以上70%未満 D60%未満	A			
	3 だいたいあてはまる	1 あてはまらない							
	満足	友だちと相談したり、自分でやり方を決めたりする授業を楽しんでいる。	児童アンケート		4+3の割合	91	児童が、「ただ楽しい」だけに留まらず、「学習の深まりが楽しい」と感じられるように、教師は児童同士を交流させる前に、誰と話し合えば自分の考えが深まるのかを考えさせる声掛けをする。また、交流後の変容を価値づけていく。		
	4 よくあてはまる	2 あまりあてはまらない			A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	A			
	3 だいたいあてはまる	1 あてはまらない							
② 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用する学習活動の充実に努める	研究主任	努力	学力向上プランを意識した活用問題を各学年で作成し、児童の活用力向上に努めている。	教員アンケート		4+3の割合	93	朝学習の時間に国語の活用問題を行い、大切な語句を丸で囲んだり、下線を引いたりして、題意をイメージする力や、条件に合った答えの書き方に慣れる練習をしていく。	
		4 よくあてはまる	2 あまりあてはまらない			A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	A		
満足	「学校は丁寧に勉強を教えている」と答えている保護者の割合	保護者アンケート		4+3の割合	87	授業で理解が不十分な児童については、休み時間等に個別に指導をする。			
4 よくあてはまる	2 あまりあてはまらない			A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	B				
③ ねらいの達成につながる効果的なICT活用に努める	GIGA構想推進リーダー	努力	授業において、協働的な学習を進めたり児童の考えや立場を明確にし、学びを深める手段として、ICT・一人一台端末の活用に取り組んでいる。	教員アンケート		4+3の割合	100	「考えをまとめる」「協働的に使う」「表現する」などの目的を達成するための手段として活用することができている。学年会で話し合ったり、全体研や学年研で実践を見たりして端末の活用について学び、実践することができている。	
		4 よくあてはまる	2 あまりあてはまらない			A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	A		
成果	児童が目的を達成するために必要な場やアプリを準備している。	教員アンケート		4+3の割合	97	ミライシードやGoogleアプリ等教科の特性やねらいを踏まえて必要なアプリを選択し使うことができるようになってきている。しかし、既存アプリが使えなくなったり、新しいアプリが導入されたりと常に学ぶ必要があるため、ミニ研修会を充実させ、情報提供できるようにしていく。			
4 よくあてはまる	2 あまりあてはまらない			A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満	A				
学校関係者評価	11月6日（水）の学校運営協議会でご意見をいただく。								